

1. 件名：特定原子力施設監視・評価検討会（第91回）に係る面談

2. 日時：令和3年5月31日（月）16時00分～18時00分

3. 場所：原子力規制庁18階会議室

4. 出席者

原子力規制庁

長官官房 金子審議官

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

竹内室長、澁谷企画調査官、岩永企画調査官、林田管理官補佐、

大辻室長補佐、石井係長、久川係員、塩唐松係員

福島第一原子力規制事務所

小林所長（テレビ会議システムによる出席）

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

小野CDO他プロジェクトマネジメント室9名（テレビ会議システムによる出席）

福島第一原子力発電所10名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

○原子力規制庁は、東京電力ホールディングス株式会社（以下「東京電力」という。）に対して、次回（第91回）特定原子力施設監視・評価検討会（以下「検討会」という。）の議題に関し、資料に基づき以下の説明を行った。

- 高性能容器（以下「HIC」という。）に保管されているALPSスラリーに関する論点について

○また、東京電力から、次回検討会の議題に関し、資料に基づき以下の説明を受けた。

- 積算吸収線量 5000kGy までの到達時間が短い HIC の扱いについて
- スラリー安定化処理に向けた設計について
- ALPS 処理水の処分に係る検討状況について
- 廃棄物設備関連の状況について
- 2月13日に発生した地震を踏まえた耐震設計の基本方針について
- 一時保管エリア（コンテナ・構内物品）の調査状況について
- 2号機シールドプラグの汚染調査状況について
- 1/2号機排気筒ドレンサンプルピットの追加調査について
- 1号機燃料取り出し用カバーの設置について
- 地震・津波対策の進捗状況について

○原子力規制庁は上記内容を確認するとともに、以下のとおりコメントを行った。

【ALPS スラリーの安全な保管と今後の対策について】

- スラリー安定化処理設備の運用開始時期としている 2 年後までに積算吸収線量 5000kGy に達する HIC の取扱いについても説明を追加すること。
- スラリー脱水物の保管容器の耐用年数について、腐食評価に係る設定条件及び算出過程を詳細に示すこと。

【2 月 13 日に発生した地震を踏まえた耐震設計の基本方針について】

- 耐震設計の基本方針については、原子力規制庁における考え方を整理した上で次々回以降の検討会で議論する。

○東京電力から、コメントについて検討の上、検討会に向けて対応が必要なものについては、適切に対応する旨回答があった。

6. 資料

- 高性能容器(HIC)に保管されている ALPS スラリーに関する論点 [原子力規制庁]
- 積算吸収線量 5000kGy までの到達時間が短い HIC の扱い [東京電力]
- スラリー安定化処理に向けた設計について (案) [東京電力]
- 多核種除去設備等処理水の取扱いに関する海洋放出設備の検討状況について (案) [東京電力]
- 厳格な放射能濃度の測定・評価に必要な設備について (案) [東京電力]
- 福島第一原子力発電所 増設雑固体廃棄物焼却設備の進捗状況 [東京電力]
- 放射性物質分析・研究施設第 1 棟の工程遅延を踏まえた分析計画への影響について [東京電力]
- 福島第一原子力発電所 2 月 13 日地震に対する追加点検結果および設備の耐震評価結果による詳細点検について [東京電力]
- 物揚場排水路での管理区域外への漏洩判断について [東京電力]
- 福島第一原子力発電所 構内物品の状況について [東京電力]
- 2 号機シールドプラグ高濃度汚染への対応状況について [東京電力]
- 1/2 号機排気筒ドレンサンピットの対応について [東京電力]
- 福島第一原子力発電所 1 号機 燃料取り出し工法のうち大型カバー設置について [東京電力]
- 地震・津波対策の進捗状況 [東京電力]